

## 教員おすすめ図書コーナー推薦書

教 員 氏 名	
<p style="text-align: center;">矢野 修一 先生</p>	<p style="text-align: center;">おすすめメッセージ</p>
<p>① 図書名：『戦争プロパガンダ 10 の法則』</p> <hr/> <p>著 者：アンヌ・モレリ</p> <p>出版社：草思社文庫                      I S B N : 978-4-7942-2106-3</p>	<p>ウクライナ戦争が長期化・泥沼化しているが、戦争の報じられ方には注意のうえにも注意を重ねたほうがいい。日本のマスメディアでは、ネオコンが仕切るアメリカのシンクタンク「戦争研究所」による情勢分析、防衛研究所研究員の解説付きニュースが大本営発表のごとく連日流されている。「ロシア=悪」「ウクライナ=善」のイメージがいつの間にか出来上がり、台湾有事、日本の安全保障問題に話が飛躍している。</p> <p>ニュースがすべてフェイクなどと言うつもりはないが、本書を読んで少し頭を冷やそう。「われわれは戦争をしたくはない。」「敵の指導者は悪魔のような人間だ。」古今東西問わず、戦争推進派による常套句だ。</p>
<p>② 図書名：『日本人のための第一次世界大戦史』</p> <hr/> <p>著 者：板谷敏彦</p> <p>出版社：毎日新聞出版                      I S B N : 978-4-620-32481-4</p>	<p>現在のウクライナ情勢、国際社会の動向を理解するには、開戦に至るまでの経緯、戦争・戦場の状況、戦後多国間外交の意味など「第一次世界大戦の歴史」をしっかり押さえておく必要がある。本書は、普通の日本人の記憶からは欠落しがちな第一次世界大戦について、読みやすい解説書となっている。本書の情報は、現代の基礎教養と言ってよい。</p> <p>確かな時間軸と空間軸を持たなければ、国家も個人も大きな過ちを犯しかねない。ウクライナ戦争の教訓と称し、軍事費の対 GDP 比2%超えを狙う権力。それを許諾する国民。世界第3位の軍事超大国となれば、後悔しながら「安全保障のジレンマ」を実感することになるだろう。</p>
<p>③ 図書名：『グローバリゼーションー移動から現代を読みとく』</p> <hr/> <p>著 者：伊豫谷登士翁</p> <p>出版社：ちくま新書                      I S B N : 978-4-480-07448-5</p>	<p>「人の移動」を切り口に、国境の意味、グローバリゼーションの諸相を解き明かした名著。</p> <p>著者は長年にわたり、世界システム論や労働力移動・移民研究を通じ、グローバリゼーションがもたらす新たなコミュニティ願望の危うさを問い、理論と実践の両面から「ナショナルなものの脱構築」を図ろうとしてきた。その成果が、遺作となった本書に凝縮されている。</p> <p>「移民」が「いる」のに「いない」ことになっている現代日本の問題は、入国管理局の暴力、ヘイトスピーチの日常化、外国人子弟の義務教育除外などに現れている。日本のグローバル化？笑かすんやないで！</p>